

Wikipedia + α から引用した色材原料の説明

No	名称	備考
①	岩群青	藍銅鉱 (らんどこう、英: azurite、アズライト) は鉱物 (炭酸塩鉱物) の一種。ブルー・マラカイトと呼ばれる宝石でもある。化学組成は $\text{Cu}_3(\text{CO}_3)_2(\text{OH})_2$ で、結晶系は単斜晶系。銅の代表的な二次鉱物の1つであり、世界各地の銅鉱床の風化帯に産する。同じく銅の二次鉱物である孔雀石 $\text{Cu}_2(\text{CO}_3)(\text{OH})_2$ と共生することが多い。藍銅鉱と孔雀石は化学組成上はひょうじょうに似ており、銅の鉱床の地表に近い所で出来る点も同じである。しかし藍銅鉱の産出は孔雀石に比べてはるかに少ない
②⑤ ⑫⑮ ⑰	ジャスパー (碧玉)	ジャスパー (碧玉) は、微細な石英の結晶が集まってできた鉱物 (潜晶質石英) であり、宝石の一種。酸化鉄や水酸化鉄などの不純物が混入しているため不透明であり、不純物の違いによって、紅色・緑色・黄色・褐色など様々な色や模様のものがある。 碧玉は玉髄や瑪瑙と同じ種類であるが、それより不純物を多く含んでいるとされる。不純物を含んだ石英は種類が多く、それゆえに様々な呼び方がある。 化学組成は SiO_2 (二酸化ケイ素)、モース硬度は7、比重は2.65。
②⑤ ⑦⑫ ⑮⑰	玉髄	玉髄 (ぎょくずい、英語: chalcedony、カルセドニー) とは、石英の非常に細かい結晶が網目状に集まり、緻密に固まった鉱物の変種。美しいものは宝石として扱われる。 瑪瑙、ジャスパーは玉髄の一種。
③	孔雀石	孔雀石 (くじゃくいし、英: malachite、マラカイト [1]) は、緑色の単斜晶系の鉱物で、もっとも一般的な銅の二次鉱物。化学組成は、炭酸水酸化銅 $\text{Cu}_2\text{CO}_3(\text{OH})_2$ であり、銅製品にできるサビの緑青の主成分と同じである。皮膜状、粉状、微結晶の集合体(塊状や層状など)などの形態で産出する。
④	石榴石	石榴石 (石榴石、ざくろいし、garnet) はケイ酸塩鉱物 (ネソ珪酸塩鉱物) のグループ。宝石としては、ガーネット、または紅榴石の名前でよばれる。 一般式は $\text{X}_3\text{Y}_2(\text{SiO}_4)_3$ または、 $\text{X}_3\text{Y}_2\text{Z}_3\text{O}_{12}$ と表される。主成分は、Xとしてカルシウム・マグネシウム・鉄 (二価) ・マンガンなど、Yとして鉄 (三価) ・アルミニウム・クロム・チタンなど、Zとしてケイ素・アルミニウム・鉄 (三価) などが入る。モース硬度は6.5 - 7.5、比重は3.1 - 4.3。
⑥	黒曜石	黒曜石 (黒耀石、こくようせき、英: Obsidian) は、火山岩の一種、およびそれを加工した宝石である。 化学組成上は流紋岩 (まれにデイサイト) で、石基はほぼガラス質で少量の斑晶を含むことがある。流紋岩質マグマが水中などの特殊な条件下で噴出し、急激に冷やされることで生じると考えられている。同じくガラス質で丸い割れ目の多数あるものはパーライト (真珠岩) という。二酸化珪素が約70%から80%で酸化アルミニウムが10%強、その他に酸化ナトリウム、酸化カリウム、酸化鉄、酸化カルシウム等を含む。
⑦	瑪瑙 (めのう)	メノウ (瑪瑙、碼瑙、agate、アゲート、アゲット) は、縞状の玉髄の一種で、オパール (蛋白石)、石英、玉髄が、火成岩あるいは堆積岩の空洞中に層状に沈殿してできた、鉱物の変種である。 主成分は SiO_2 (二酸化ケイ素)。比重は2.62-2.64、モース硬度は6.5-7。隠微晶質であるため、肉眼では結晶を認めることができず、非晶質のように見える。
⑧	虎目石	タイガーズアイは、リーベック閃石の繊維状鉱物であるクロシドライト (青石綿) に石英が染み込んで硬化したケイ酸塩鉱物である。 主成分は石英 (SiO_2) で、モース硬度7.0、比重2.7、ガラス光沢の性質 [2] を持つ。石英化したクロシドライトの繊維組織が幾重も平行に走っているため、タイガーズアイは研磨することにより光の反射に差が生じ、独特な光の筋が生み出される。化学組成: $\text{Na}_2\text{Fe}^{2+}3\text{Fe}^{3+}2[\text{OH} \text{Si}_4\text{O}_{11}]_2$
⑩	岱赭	中国山西省の代州で採取されたものが良質であったことから名づけられた。古来より各地で使われ、茶色系に用いられた。金茶石ともいう。主成分は酸化鉄 (弁柄: ベンガラ)。このベンガラという名前は、インド東部のベンガル地方で産出する天然の酸化鉄顔料に由来する。
⑪	水晶	石英 (せきえい、クォーツ) は、二酸化ケイ素 (SiO_2) が結晶してできた鉱物。六角柱状のきれいな自形結晶をなすことが多い。中でも特に無色透明なものを水晶と呼び、古くは玻璃 (はり) と呼ばれて珍重された。粉末は水晶末と呼ばれ、顔料として使用される。化学組成は SiO_2
⑯	緑簾石	緑簾石 (りょくれんせき、epidote、エピドート) は鉱物 (ケイ酸塩鉱物) の一種。緑簾石グループに属し、化学組成は $\text{Ca}_2\text{Fe}^{3+}\text{Al}_2(\text{Si}_2\text{O}_7)(\text{SiO}_4)\text{O}(\text{OH})$ 、単斜晶系。 火成岩や変成岩にふつうに見られる。特に緑色片岩に多く含まれる。
⑰	金茶石	金茶 (きんちゃ) は、明るく黄色がかった茶色。金色に近い色合いである。別名は山吹茶 鉄石英とあるのでジャスパーであると思われる。
⑱	アマゾナイト	青緑色の微斜長石を天河石 (amazonite、アマゾナイト) といい、微量の鉛によって色付いている。北アメリカ・ブラジルで産出。古代エジプトで宝石として利用されていた [1]。緑青色の強いものは翡翠に類似し、空青色の強いものはトルコ石の色に類似している。微斜長石 (びしゃちょうせき、microcline、マイクロクリン) は、鉱物 (ケイ酸塩鉱物) の一種。 化学組成: KAlSi_3O_8
⑲	ソーダライト	ソーダライトとは準長石の一種で方ソーダ石グループに属するケイ酸塩鉱物である。ラピスラズリを構成する鉱物の一つでもある。 典型的な化学組成は $\text{Na}_4\text{Al}_3(\text{SiO}_4)_3\text{Cl}$ 。モース硬度は5.5 - 6。比重は2.27 - 2.33。青色系が多いが、他にも様々な色のものが見られる。
⑳	電気石	トルマリン (tourmaline) は、ケイ酸塩鉱物のグループ名。結晶を熱すると電気を帯びるため、電気石 (でんきせき) と呼ばれている。 代表的な化学組成: 鉄電気石 (schorl): $\text{NaFe}_3\text{Al}_6(\text{BO}_3)_3\text{Si}_6\text{O}_{18}(\text{OH})_4$